

会 議 録

(1)実施概要

会議名称	第1回泉大津市就学前施設再編検討委員会
開催日時	平成 29 年 12 月 25 日（金）午前 10 時 00 分～正午
開催場所	泉大津市役所3階 大会議室
出席委員 (名簿順。敬称略)	長瀬委員、阪上委員、田中委員、内藤委員、生田委員、安里委員 (欠席) 植野委員、村田委員 全 8 名のうち、出席 6 名、欠席 2 名
事務局	三井健康福祉部長、朝尾教育部長、松下社会福祉事務所長、藤原こども未来課長、木村教育総務課長、川口生涯学習課長、池川指導課長補佐、谷本こども未来課長補佐、こども未来課、伊加井こども支援係長、岡田、早野
会議次第	1. 開会 2. 案件 ①泉大津市就学前施設再編検討委員会設置要綱について ②委員の指名 ③委員長、副委員長の選出 ④本市就学前教育・保育施設の現状と課題について 3. その他 4. 閉会
会議資料	【配付資料】 資料 1 泉大津市就学前施設再編検討委員会設置要綱 資料 2 泉大津市就学前教育・保育施設の現状と課題について
会議の公開／非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開（傍聴者数 1 名） <input type="checkbox"/> 非公開
会議録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録 <input type="checkbox"/> 全文記録
その他の必要事項	なし

(2)審議概要(意見要旨、審議経過、決定事項等)

事務局による進行	1. 開会（記録省略） 2. 案件 ①泉大津市就学前施設再編検討委員会設置要綱について（記録省略） ②委員の指名（記録省略） ③委員長、副委員長の選出
委員長による進行	要綱第5条1項に基づき委員の互選により選出。 委員長は長瀬委員（子ども・子育て会議会長）、副委員長は生田委員（校長会会長）に決定。 ④本市就学前教育・保育施設の現状と課題について ※事務局より上記を説明（記録省略）
委員長	◇本市就学前教育・保育施設の現状と課題について、委員の皆様から意見を頂きたいと存じます。
委員	◇公立保育所に求められているニーズは保育現場から見て、ここ数年で大きく変わっていると感じています。これまでは就労要件によって入所している子どもが多かったが、ここ数年は様々な要件によって入所している子どもが増えてきています。身近に相談できる人がいない、子どもへの接し方が分からないといった悩みを抱える保護者が増えてきています。保育所は子ども達にとって安心して過ごせる場所であることは当然のこととして、保護者にとっても心の支えとなれることの必要性を感じています。
委員	◇公立幼稚園の現状について。3歳児保育は他市に先駆けて実施してきた経緯があります。3歳児保育を開始した頃は入園が多く、毎年抽選が行われてきました。子どもの数が減少傾向にあるのと同時に就園率も低下してきました。平成26年度にくすのき認定こども園が開園した当時は保護者の認定こども園に対する関心があまり高くないと感じましたが、平成27年度にかみじょう認定こども園、多くの民間認定こども園が開園したことによって、より多くの保護者へ認定こども園が周知されたかと思われます。幼稚園は給食が無いが認定こども園では給食が有る点、保護者の就労状況によって幼稚園から保育所へ移ったり、保育所から幼稚園へ移ったりといったことが無くなることによって得られる安心感、7時～19時まで子どもを預けられる点など、幼稚園と認定こども園の違いを保護者が意識するようになったかを感じています。幼稚園は改善できる点は改善する等して、園児が通いやすい環境整備に努めていますが、様々な保護者ニーズを背景に幼稚園の就園率が低下していることを実感しています。子ども達一人一人を見てみると、育ちや発達が気になる子どもであったり、配慮が必要な子どもが増加していると感じており、今後においても一人一人を大切にす保育、教育を実施していきたいと考えています。
委員	◇私立幼稚園の現状について。国は幼稚園、保育所費用の無償化を検討していますが、経済的に厳しい家庭であっても教育、保育が受けられることは非常に大切なことと思われます。守口市は既に無償化を実施し、大阪市においても4歳児、5歳児の無償化が実施されており平成30年4月からは3歳児も対象に拡大される予定となっています。その結果、減少傾向にあった待機児童数が増加に転じ、保育教諭が約100人不足するといった状況になりました。これらは無償化に伴って生じた課題であります。無償化が果たすべき最も重要な役割は少子化を食い止め、子ども達の数を増やすことと思われます。無償化になれば、保護者は子どもを預けて働こう、と考えることが予想されます。子どもを増やすことを考えないと、無償化は失敗に終わると思われます。子育てに関する保護者への支援は必要ですが、出産しようという気持ちを支援する施策が必要と思います。福祉政策の重要性は理解していますが、福祉政策に比べて、教育政策への国の取組が不十分と感じられます。そういった状況下でも泉大津市には独自の教育観があると思われ

	<p>ますし、今後も引き続き泉大津市の教育観の確立に向けて取り組んで欲しいと思います。</p> <p>休日保育について。私の施設では休日保育を実施していますが、平日には別の就学前施設に通所している子ども達が利用しています。平成 26 年度から委託事業として運営しており、平成 26 年度は有料であったが平成 27 年度から新制度に移行して公定価格に含まれることとなり、保護者負担が無くなりました。保護者負担が無くなったことにより、休日保育利用者は増加しました。平日のみでなく休日保育も利用している子ども達は、家庭で保護者と一緒に過ごす時間を確保できているのか、心配です。無償化によって、子どもが家庭で過ごす時間がより少なくなるという弊害が生じる恐れがあります。就学前施設の再編に当たって、こういった点も含めて検討を進める必要があると思われます。</p> <p>資料 2 - P8、下から 2 行目に記載されている「競争心の希薄化」という表記について、資料を読んだ人に誤解を与えないような表現に改めることが望ましいと思われます。</p>
<p>委員長 事務局</p>	<p>◇無償化について、市の考えを示してください。</p> <p>●基本的には国が示す政策方針に基づくこととなり、市独自の考えに基づいて無償化を実施する予定はありません。</p>
<p>委員長 事務局</p>	<p>◇保護者の就労を支えることは大切な役割と思われるが、子ども自身の疲れ、休息、良好な親子関係構築等に結びついた支援となっているか、調査することは可能ですか。</p> <p>●泉大津市では休日保育を実施していません。保護者の負担軽減、就労支援を図る等、色々な意味での保育の必要性があるのかと思われますが、子どもが休み無しでずっと保育を受けることとならないか、一過性のものか、継続するものかも含めて状況の把握に努める必要があると思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>◇福祉といった観点のみでなく、子どもの育ち、教育といった観点の両面から就学前施設を考えていく必要があるという貴重なご意見をいただけたかと思えます。この委員会においても常に一人一人の子どもが、どう大切にされているか、就学前にふさわしい生活や経験ができていないか、といった視点に基づいて施設のあり方、保育形態の在り方を検討することとなります。</p>
<p>委員</p>	<p>◇小中学校の現状について。泉大津市には元々 8 校の小学校があり（宇多小学校を含むと 9 校）、幼稚園が 8 園ありました。1 小学校と 1 幼稚園が密に関わってきた経緯があり、各学校と園の距離が近いのが良い点であったかと思われます。小学校と幼稚園の連携は非常に重要であり、条東小学校は条東幼稚園、条東保育所と連携し色々なことに取り組んでいます。幼稚園のほとんどが単学級で、今年度の複数学級は 6 園中、条東幼稚園 4 歳児、条南幼稚園 3 歳児のみとなっています。小学校長と幼稚園長、が 4 月初旬に集まって年間計画を作成しており、内容について特に多いのは小学校 5 年生との幼稚園年長との関わりですが、それ以外の学年や中学生との交流もあります。支援学級の子ども達が幼稚園に行つて餅つきをしたり、避難訓練の際には小学校の運動場に集まって水平避難を行った後に、校舎 4 階まで上る垂直避難も実施しています。幼稚園と小学校の距離が近いことによって、こういった訓練も可能となっています。スタートカリキュラムについて、上條小学校では研究が進んでおり、今年度から始業式の翌日からスタートカリキュラムが開始しています。幼稚園と小学校の距離が近いことの重要性は常々感じています。浜幼稚園の廃園についてはやむをえなかつたと理解していますが、寂しい思いはあります。</p>
<p>委員長 事務局</p>	<p>◇浜幼稚園在園児の今後について、お示してください。</p> <p>●浜幼稚園について、現在は 3 歳児 5 名、4 歳児 20 名、5 歳児 19 名であり、平成 30 年度は 3 歳児の入園募集を実施しない。現在の 2 歳児は入園ができず、3 歳児は卒園できな</p>

	<p>いこととなるため、今後の希望等について保護者から聴き取りしています。保護者の意見の中には、校区を重視していることから浜保育所への入所を希望する、といった意見もあったため、新制度にもある特別利用保育によって浜保育所で1号の子どもを預かる予定です。これについては、兄妹であったり、現在、浜幼稚園の3歳児として在園している等の条件付で、数名の入園を3年目途で考えています。市域面積がコンパクトで平坦な土地であることから、えびす認定こども園、かみじょう認定こども園、旭幼稚園、条南幼稚園等は通園可能区域として考えています。これらの園への通園を検討していることを認識しています。</p>
委員長	<p>◇現在開園されているこども園の1号と2号の人数の内、3, 4, 5歳の大まかな比率を示してください。</p>
事務局	<p>●平成29年5月1日現在(幼稚園園児数の基準日)、くすのき認定こども園短時間部は3, 4, 5歳児の計が94名。長時間部の3, 4, 5歳児は68名です。4月1日現在、0, 1, 2歳児について、くすのき認定こども園長時間部2号と3号の合計が110名。かみじょう認定こども園について、短時間部1号認定が122名、2号と3号の合計が177名です。</p>
委員	<p>◇子どもがくすのき認定こども園に通っているが、小学校へ行く行事があったり、普段関わることが少ない短時間部の保護者とも密に関わり知り合いができたこと等について良かったと思っています。上の子は条南小学校に入学しましたが、友達作りをいちから始めないといけなくなった点は残念に感じています。それぞれの小学校区に公立保育所があれば、保育所に通っている友達と一緒に小学校に入学できただろうと思われるため、条南校区にも公立保育所を作って欲しいと思いました。くすのき認定こども園は他の保育所に比べて、色々な子どもがいるので、友達付き合いという点については良かったと思っています。</p>
委員	<p>◇小学校入学時における幼稚園、保育所と小学校の連携は今後も継続させていきたいと思っています。幼稚園では単学級が増えており、戎幼稚園も単学級であります。戎幼稚園は平成30年度から認定こども園になるため、宇多保育所とは昨年から合同運動会等、行事を合同で実施することによって大きな集団での経験に結び付けています。戎幼稚園の1階部分が改修中であるため、3, 4, 5歳児は2階の隣あった教室で生活しています。今までは1階が3歳児、4歳児、2階に5歳児の教室がありましたが、横並びになったことによって自然と異年齢児と一緒にままごと遊びをしたりして、お互いに異なる学年を意識しつつ上の学年の子は下の学年の子をいたわったり、下の学年の子が上の学年の子に憧れの気持ちを抱いたり、同学年内では育たない気持ちが育まれていると感じています。集団生活の中で子どもの数が多ければ、経験できることも多くなると思われますが、各園は単学級の中でも子ども達にどういった経験をさせてあげられるか工夫しながら運営しています。今後も園児数は減少傾向にありますが、工夫しながら運営していきたいと考えています。</p>
委員長	<p>◇子ども達が対等な仲間関係の中で育つ部分は重要かと思われませんが、他の年齢の子ども達と交流しながら育つ面についても大切にされている点が良かったと思います。そういった部分も幼稚園に期待される側面かと思われそうです。</p> <p>幼稚園教育要領を含め、指針要領が改訂される時なので、保育所、幼稚園、認定こども園として保育内容と計画の見直しを図る時期になるかと思われそうです。えびす認定こども園の開園にあたり、その点については十分留意していただきたくようお願いします。これまでの教育と保育の蓄積を総合し、なおかつ要領指針改定の方向性にきちんと沿った形で運営することが大切かと思われそうです。</p> <p>資料2-P8、下から2行目に記載されている「競争心の希薄化」という表記について、事務局の考えを示してください。</p>

事務局	<p>●表現方法を見直し、改めてお示しさせていただきます。</p> <p>今後の会議に向けて必要になってくると思われる資料があれば、随時事務局まで連絡をお願いします。</p>
委員長	◇案件⑤に移りたいと思います。事務局は案件⑤について説明してください。
事務局	●事務局から案件⑤（今後のスケジュールについて）説明。
委員長	◇以上をもちまして、本日の次第については終了しました。
事務局	<p>●次回の就学前施設再編検討委員会は3月頃に開催させていただきたく存じます。改めて、日程調整の連絡をさせていただきますので、よろしくをお願いします。これをもちまして、第1回泉大津市就学前施設再編検討委員会を終了いたします。ありがとうございました。</p>